

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075800468
法人名	有限会社 リフレッシュ
事業所名	グループホーム 彩
所在地 (電話番号)	福岡県嘉麻市口春735-38 (電 話) 0948-42-6071

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 21年 11月 17日	評価確定日	平成 22年 1月 7日

【情報提供票より】(平成 21年 10月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 7人, 非常勤 5人, 常勤換算 7.0人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造鋼板葺 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90 歳	最低 80 歳	最高 99 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松口循環器内科、稲築病院、佐々木歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

モダンな建物のホームの中から、ひととき大きな笑い声が聞こえてくる。ホームの中に入ると、ご家族や地域の方々から頂いた大きな蘭の花々が飾られ、“つばめの巣”の名残も残されている。広いリビングは天井が高く、開放感にあふれた環境が造られている。台所では、調理担当の職員の方が笑顔で楽しそうにお料理をされており、その横では、ご利用者と職員の方々心がから楽しみながらレクリエーションをされていた。代表ご夫妻のお人柄は、このホーム全体を温かく包み込んでおり、一つの大きな家族となっている。その温かさは、地域全体に波及を続けており、ご家族が、日常の中で畑や草花の手入れをして下さり、犬の散歩にも行って下さる。近所の方々が、梅干しや野菜を持って遊びに来て下さることも日常で、昔ながらの近所付き合いが行われている、ご利用者のお誕生日には、昔着ることができなかった“ウェディングドレス”を着て頂くなど、潜在的にある要望を把握しながら、瞬間瞬間の感動の機会を作ることを大切にされている。その感動は、“深い記憶”に刻まれ続け、言葉を失っていた方が少づつ言葉を取り戻されるなど、感動の場面も多いホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価以降、更なる取り組みに向けた話し合いを職員全員で行った。主な内容は、①ご利用者の心身状況の変化に伴い、以前のような外出が難しくなってきた。ご利用者一人ひとりの“がんばりカード”を活用し、その方のペースや生活リズムを大切にしながら、介護計画を作成していった。②近隣のホームの方々と一緒に、楽しくお花見を行うことができた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 経験の長い職員が多いが、管理者が、“ケアの振り返り”や“行っているケアの再確認”のために評価を行うことを、あらかじめ職員に説明した。ミーティングには全職員が出席し、項目毎の説明を受けた上で項目一つ一つについて話し合いながら、その結果を1つにまとめていった。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ご利用者・ご家族・公民館長・市職員・地域ボランティアの方々に参加して頂き、概ね2ヶ月に1回、開催している。参加者からは、いろいろな立場の視点からご意見を頂いている。参加者の方より、「ホームの行事に参加したい」と言うご意見を頂き、行事への参加を企画した。ご利用者も一緒に昼食の試食会を行うことができた。「料亭よりもおいしく、真心の味がする。野菜中心であり、バランスが取れている。ごま豆腐まで手作りとは、感激しました。ここの施設の方は幸せですね」と言う評価を頂いた。外部評価の結果も報告している。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) ご家族との会話を大切にしており、支援経過記録を見て頂きながら、日頃の暮らしぶりや健康状態などを個別具体的に報告している。ホームの運営に、積極的に関わって頂けるご家族も多く、行事の時のお手伝いや、畑作り、ホームの犬の散歩などの役割を担って下さっている。ご利用者の方々のためにと、山から“シイタケの原木”を持ってきて下さり、ご利用者の楽しみの一つとなっている。今後も、ご家族と共にホームの運営を行っていきたいと考えられている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の敬老会やお祭りなどには積極的に参加している。地域の図書館やお店を利用し、地域の一員としての交流を続けている。近所の方々も、「ここに置いた方が、皆さんに見て頂けるから・・・」と、自宅にあった大きな蘭の花を持ってきて下さったり、手作りの梅干しを持ってきてくれる方もおられる。地域の子ども達をホームに招待し、パン食い競争などの運動会をご利用者と楽しむ機会も作れた。地域の“お手玉大会”への参加も、ホームの楽しみの一つとなっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの開設時に、代表と管理者が作った“笑顔と寄り添い”というホームの理念には、ご利用者が“地域人”として様々な活動に参加したり、地域の方々と触れ合いながら過ごされるようにという思いが込められている。また、法人の理念には、“地域の方々がより良い介護サービスを受けられるように”と言う、地域の方々へ貢献したいという思いも込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ご利用者の心身状況の変化が見られているが、管理者と職員は、日々、ご利用者一人ひとりのペースに合わせ、毎日の生活で“笑う”ことを大切にされている。楽しみが沢山できるように、日々のレクリエーションや外出、地域の子供達との交流などができる取り組みも続けている。月2回のミーティング時には、“笑顔と寄り添いのあり方”や“地域との関わり”などの話し合いを続けている。	○	心身機能の維持に向けて、外出などの機会も増やし、ご自分で“歩く”ことができるように取り組まれてきたが、ご利用者の年齢などとともに、車いすを利用する方も増えてきている。それに伴い、転倒などの危険性も日常生活の中で起こることもあり、日夜、職員の方々は見守りを増やすとともに、転倒予防対策の検討も続けてこられた。今後も、“笑顔と寄り添い”の中で、昼夜を問わず、その方が“人として”安心した生活が送れるような検討が続いていかれることを期待していきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者の地元地域であり、昔から親しい交流が行われてきた。地域の方々からの支援は変わらず続いており、“昔の温かい近所付き合い”がそのまま継続されている。常に、ホームのことを気遣って下さる地域の方々に対して、管理者や職員の方々はありがたく感じている。ホームのご利用者の方々も、積極的に地域活動に参加している。近隣の方も、漬物等の差入れに來られたり、「上がっていい？」と気軽に訪問され、子供たちも遊びに来てくれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の離職は無く、馴染みの職員同士で自己評価を行った。この1年間の“ケアの振り返り”や“行っているケアの再確認”のために評価を行うことを管理者が説明した。ミーティングには全職員が出席し、項目毎の説明を受けた上で項目一つ一つ話し合い、その結果を1つにまとめた。前回の外部評価の結果を全職員に配布し、全員で改善策を検討すると共に『改善計画書』を作成して、改善に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。参加者の方には、ご利用者と一緒に行事に参加して頂き、日頃の生活の様子も知って頂くように努めている。「ご利用者の笑顔が一番ですね」と参加者の方の感想を頂いている。今年初めて(21年)、看取りケアも行わせて頂き、その報告も会議の場で行った。毎回、有意義なひとときとなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員には運営推進会議に出席して頂いており、日頃からホームの状況等をお伝えしている。市の課長もホームの状況を聞いて下さり、ホーム立ち上げの時から協力して頂いている。市の職員が参加する研修会にて、管理者が“認知症の方の社会参加について”に関する活動内容等も発表した。市の方と協力して、より良いケアを行ってみたいと考えられている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用されているご利用者はおられないが、制度のパンフレット等は、ホームに備え付けている。管理者、職員が、制度に関する外部研修に参加し、他の職員にも伝達研修を行った。市の職員から、職員やご家族などへの説明の機会も設けた。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族が頻繁に来訪されるので、その都度、健康状態や暮らしぶり等、支援経過記録もお見せしながら報告をしている。必要時は、管理者から電話をすることも多い。遠方で来訪が難しいご家族には、写真を添えて手紙を出している。2ヶ月に1回発行の“あや新聞”はご利用者も書き込みをされ、ご家族の面会時にお渡ししている。金銭管理は毎日精算を行っており、面会時に記録帳をお見せして報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	無記名のアンケートを実施している。公的な相談窓口のポスターを玄関に掲示し、意見箱も設置している。現在は、ご家族が自由に意見等を言える関係にあり、積極的にご意見等を言って頂けるように努めている。ご家族からのご意見はスタッフノートに記録し、職員間で情報を共有し検討している。運営推進会議の議題に取り上げ、参加者から助言を頂くこともある。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者(社長と管理者)は、職員の日々の頑張りに常に感謝の気持ちで向き合っている。体調にも配慮し、疲れがたまった時には、“整体”のチケットを渡し、心も体もリフレッシュして頂いている。職員との会話も大切にしており、一緒に喫茶店でコーヒーを飲みながら、ゆっくりお話をする時間を作る等、一人一人の職員に対して常に思いやりの気持ちで接している。また、調理専門の職員(2人)、掃除担当職員(2人)を配置し、基準以上の人員配置にする等、職員の勤務条件の向上にも努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用や募集にあたり、性別、年齢等の制限は行っていない。管理者が面接を行い、採用対象者の印象、声のトーン、優しさなどを観察しながら、“介護をするにあたり・・・”に関する質問や体験談などを話して頂くなかで判断している。お料理、レクリエーション、壁面の飾り付けなど、職員一人ひとりの方に、得意なことを発揮して頂き、生き生きとお仕事ができるようにしている。職員の資格取得等も積極的に支援しており、勤務調整希望に応じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議や日々の現場で、社長や管理者が常々「介護をしている人は“してやっている”という感覚になりがちなので、そうならないように。敬い気持ちで・・・」と話している。特に声かけは、命令的な口調にならないように指導している。ご利用者にお一人様だけ“ちゃん”付けでお呼びしている方がおられるが、ご本人に“どう呼んで欲しいか”を確認し、ご家族の了解のもとで“ちゃん”付けでお呼びしている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社長と管理者は、職員育成のためには研修を受けることが大事であると考えられている。資格取得を強制はしていないが、“資格を持っていると、いろいろな点で自分の役に立つ”と推奨している。職員が、県や事業者協議会主催の外部研修に参加し、内部研修で伝達講習を行い情報の共有を図っている。職員毎の育成計画を作成しており、ホームとして個人の能力や知識などに合わせて研修を選び参加させているが、本人の希望で参加する研修もある。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者協議会に加盟し、ブロック別の毎月の会合に管理者が参加している。職員も、研修会や合同の事例検討会や職員親睦会等に参加し、日常的に情報交換などしている。他ホームより、訪問や見学、相談に来られることもあり、新設ホームの職員研修を受け入れたり、代表と管理者が、運営や経営相談にも乗るなどしている。隣接の市のホームと合同でお花見やバーベキュー大会を開催しているが、今年(21年)は、参加ホームの数が増えており、より楽しい集いとなっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居される前から、ホームの見学や体験通所の受け入れを行っており、実際にホームの生活の様子を見て頂き、不安なく入居していただけるように支援している。入居が決まった後は、ご利用者やご家族と相談しながら、馴染みの家具や寝具などを持ってきていただくよう、あらかじめ準備をお願いしている。また、職員は、ご利用者やご家族から了解を頂いた上で、馴染みの呼び名でお呼びするようにしており、馴染みの環境を整え、ご利用者に安心して生活していただけるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、ご利用者から、ちまきの巻き方やぼたもちの作り方、昔の行事や言い伝えを教えていただいております。日々の生活を通して生活の知恵や学びを頂いている。職員が研修に行く時は「がんばって、いつてらっしゃい」と励まして下さり、入浴介助など日常的に行っている支援に対しても、「ありがとう」と言葉をかけて下さるご利用者の優しさ、日々支えて頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しながら、日々のケアの中でご利用者の思いを把握するように努めている。社長や管理者も個別にお部屋を訪問し、ゆっくりお話をする時間を作っている。言葉での伝達が難しいご利用者にも、ご家族に生活歴等を伺ったり、多くの言葉かけをしながらご利用者の表情や様子から、思いを汲み取るように努めている。まったくお話ができなかった方が、日々の職員の関わりにより言葉を言われる時があり、職員全員で感動し喜びをご本人にも伝えている。	○	日々のケアの中で、ご利用者の方々から“思い”や“生活の知恵”などを語って頂くことが多い。今までも記録に残しているものもあるが、その方が、その時に語られた思いや言葉を、できるだけ多く、ノートなどに残していかにいかかであるか。ご家族への報告時にも、とても大切な報告内容の一つになる可能性もあり、今後の取り組みに期待していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が、“生活援助計画”を作り、ミーティングで他の職員の意見も取り入れ、最終的に計画作成担当者が作成するようにしており、ご利用者のかかりつけ医にも助言を頂いている。“利用者自身の計画”という視点で立てられた計画は、ご本人やご家族の意向や職員の気づきを反映し、“その人らしく暮らし続ける”ための視点や“地域で暮らす”という視点も盛り込まれている。ご利用者と一緒に、毎月“がんばりカード”も作成し、目標を意識しながら、ご利用者も日々過ごされている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の生活の中でもケア内容の確認を行い、個人記録にも実施状況の記録を残している。月2回のミーティング時に、ご利用者のケアの変更の必要性等についての検討が行われている。計画は3ヶ月ごとに見直し、ご家族の面会時に、計画についての説明を行うと共に話し合いをしている。ご利用者の状態が変わった場合や、新たな意見が出た場合などの必要時には、設定した時期の前でも計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人が、ホームで安心して暮らせるように、日々の生活の中で、健康状態の観察を行い、早期発見、早期治療が行えるようにしている。協力医療機関の医師による月2回の往診や、看護師との連携も取れ、夜間の緊急時には、協力医療機関の医師を通して飯塚病院で診て頂けるなど医療連携体制は十分に整っている。お誕生日の時など、ご本人の希望も伺いながら、演歌歌手のコンサートに職員も同行して行くことができた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医で受診して頂いているが、希望により協力医療機関に変更されている方もおられる。通院介助は職員が行っているが、ご家族が希望された場合や、医療機関の所在地や時間帯によってはご家族が通院介助をして頂いている。受診結果は、変化の有無に係わらず速やかに報告している。ご家族のみで通院介助をされた場合には、ホームに帰られた時に報告して頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に『重度化の際の指針』をお渡しし、ホームでは“生に対する尊厳”を方針としていることを説明して、ご本人やご家族の意向を確認している。最期までホームで過ごすことを希望されている方もおられ、医師からのお言葉(勧め)もあり、今年(21年)、ホームでの看取りケアが行われた。職員にとっても初めての経験であったが、最期まで、誠心誠意のケアを行った、24時間体制で、医師や看護師、ご家族の協力を頂け、とても安らかな死を迎えることができ、ご家族の方からも感謝の言葉を頂けた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本的には、ご利用者を“さん”付けでお呼びするようにしているが、ご利用者が馴染まれているとの理由から、ご利用者とご家族の了解を頂いた上で、長年馴染まれてきた呼び名でお呼びすることもある。職員は、常に目上の方に対する尊敬の念を持ってご利用者に接することができている。管理者は、個人情報保護に関する内部研修を行っており、研修を通して、ご利用者の個人情報取り扱い等について職員に周知徹底を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、それぞれのご利用者のペースで生活して頂けるように支援しており、朝のレクリエーションや健康体操などは、ご利用者の希望のもと参加されている。ご利用者には、ご自分の居室でゆっくり過ごされたり、フットバスを楽しまれる等、それぞれにご自分の時間を楽しまれている。意向を表明されないご利用者には、職員が寄り添いながら共に過ごし、ご利用者の表情や何気ない言葉からご利用者の希望を汲み取る努力を続けている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には、ホームの畑で収穫したシタケや、近隣の方やご家族からの差し入れの梅干しや野菜を取り入れ、ご利用者の希望のもと、だんご汁などご利用者の馴染みの料理が出されている。それぞれのご利用者は、食材の買出しや下ごしらえ、下膳や食器洗い等に、職員と一緒に取り組まれている。ご利用者は、静かな雰囲気ですること望まれており、職員は静かな雰囲気を保ちながらも、ご利用者との会話を通して和やかに食事を楽しんで頂けるよう支援している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	13:30から16:00を入浴時間と決めているが、ご利用者の希望に応じて、入浴時間以外の時もシャワー浴などで対応している。入浴時間や入浴する順番、湯温などは、それぞれのご利用者の希望に応じており、毎日または1日おきに入浴して頂いている。ご利用者に安心して入浴して頂けるように、湯船の中に滑り止めマットを敷き転倒予防を図っている。また、たらいに湯を張ってフットバスを提供したり、季節に応じて菖蒲湯やゆず湯を行い、ご利用者に楽しんで頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれのご利用者が“がんばりカード”を持っておられ、“一日1回、廊下を一往復する”、“犬に餌をあげ、世話をする”など、ご利用者が自分で掲げられた生活の目標に、日々楽しまれながら取り組まれている。ご利用者は、毎日目標に取り組んだ後“がんばりカード”に印鑑を押すことを楽しみにされている。“がんばりカード”を通して、それぞれのご利用者が生活に生活に張り合いを感じておられ、いきいきと目標達成に向かって日々生活されている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者は、日常的にホーム周辺の散歩を楽しまれており、お花見など季節に応じた外出も行われている。車いす対応の環境が整えられた歴史資料館の見物に出かけるなど、車いすのご利用者にも安心して外出を楽しんでいて頂けるよう、地域の社会資源を活用しながら外出を行っている。以前から散歩を習慣とされていたご利用者は、隣の病院まで出かけ、馴染みの看護師さんと話を楽しまれることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、19:30から7:00の間は施錠しているが、日中は鍵をかけることはなく、自由に入出入りができるようにしている。夜間のホームの戸締りは、ご利用者が“がんばりカード”の目標として、職員と一緒に毎日取り組まれている。職員は、日頃から立ち位置を工夫したり、職員同士で声を掛け合いながら、ご利用者の見守りを行っており、ご利用者が一人で外出された時は、職員が後ろから付き添いようにしている。近隣の方にも、見守りやホームへの連絡の依頼を行っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでは定期的に避難訓練を行っており、職員・ご利用者・ご家族・地域の方・消防署職員が参加し、夜間の火災を想定した避難訓練を行っている。今年は、社長が防火管理者資格を取得したことで、防火管理体制が更に整えられた。近隣の方やホームに隣接する稲築病院には、火災等の有事の際のご利用者の避難誘導をあらかじめ依頼している。消防署の指導のもと、非常食や飲料水、懐中電灯や救急用具やオムツ等を数日分常備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、職員がパソコンソフトを利用してカロリー計算や栄養バランスをチェックしており、医師の指導を受けながら、随時改善が図られている。ご利用者の好みに応じて、食材の変更や調理方法を変えたり、飲み物を選ぶようにすることで、ご利用者に負担なく食事や水分を取って頂けるよう支援している。ご利用者の食事や飲水の量は記録されており、状況に応じて主治医に報告されている。食事にはインスタント製品を使わず、自然の食材を調理するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはご家族や地域の方々から頂いた大きな蘭の花々が飾られ、玄関に置かれたソファーはご利用者や面会に来られた方の憩いの場所となっている。リビングは、朝のレクリエーションや食事の時など、それぞれの時間に応じてテーブルの配置を変えており、目的に応じた空間作りが行われている。リビングの壁には、ご家族に頂いた陶板製の七福神や季節ごとの行事の写真が飾られている。リビングには大きな窓があるが、テーブルの位置を工夫するなどして、光への配慮がなされている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和室と洋室があり、希望に応じて選べるようになっている。入居の際には、馴染みの物を持ってこられるよう、あらかじめご利用者やご家族に相談し、準備していただいている。利用者は自宅で使っておられた家具やテレビ、ご家族の写真などを持ってこられ、御位牌を持って入居されたご利用者もおられる。入居後も、ご利用者やご家族と相談しながら、自宅から馴染みの品を持ってきていただくなど、居心地良く過ごしていただけるよう取り組みを続けている。		